四国大学紀要，(A) 44：79－88，2015
Bull. Shikoku Univ. (A) 44：79－88，2015

バビロンとは何であるか？

蔵 谷 哲 也

Where Could Babylon Be Located?

Tetsuya Kuratani

ABSTRACT

Mainly using the Holy Scripture, we try to find out where Babylon could be. It is a system to rebel against and exclude the Lord, whose origin was initiated by Adam and Eve by committing sin against God and dealing with it by themselves. There has been Babylon throughout the history from its beginning to end. It is prophesied that it falls apart. It is estimated that Babylon will gradually appear taking its shape as the world globalizes. Its salient natures are first, it has a unified common goal, second, it is united and third it has one common language. Once these three factors are combined, Babylon will become unstoppable as it is told by the Lord in verse 6 chapter 11 in Genesis.

Keywords : Babylon, Nimrod, Hammurabim, Tower of Babel.

1．バビロンの意義

バビロンの重要性は聖書[1]で登場する回数から理解できよう。創世記から黙示録まで聖書全体を通して，二つの用語が瀕出する。一つはエルサレムで，もう一つはバビロンである。これらは両方とも都である。欽定訳聖書でバビロンを検索すると，エルサレムは814回，バビロンは294回登場する。エルサレムは神の都，バビロンは神に反逆する者の拠点である。

バビロンは歴史の初めと終わりにおいてある種の重要な役割を持っている。神にあくまでも反逆することの帰結がどうなるかを物語るという役割である。歴史の初めである創世記にはバビロンではなく，バベルという名称で登場する。[2] 一方，歴史の終わりであるヨハネによる黙示録ではバビロンという名前で６回言及されている。[3]

文字通りの意味ではバビロンとは古代バビロン帝国の首都であった。バビロンの神話によると，紀元前2300年から紀元前325年までの歴史を持ったという。バビロンのあった場所は，メソポタミアである。そして，チグリス川とユーフラテス川の間の土地で，現在のイラクあたりの地域を指す。そうは言ってもバビロンとは単なる過去の遺物ではない。そうであっても考古学者たちの発掘によって，バビロンの遺跡が発見され，聖書の記述の正しさを認識する人たちも出てきた。その上，バビロン文明はのちに続く世界の諸文明に多大な影響を与えてきた。例えば，天文学，魔術，占い，偶像礼拝などはバビロン起因である。[4] バビロン文明からもたらされた科学や数学は，それら自体に問題があるというのではない。それらを使う側に問題が起こりうるのである。アダムとイブが善悪の知識の実を食べて以来，人類は何が善で何が悪か知識で分かっていても，善をおこなうことが困難になった。科学が発達しても，原子力による放射能汚染，地球温暖化，開発による環境破壊が起こり，食い止めることができない。

神に反逆するバビロンは歴史上，倒壊してきた。そして，ヨハネの黙示録を見ると，現代または未来にあるバビロンも崩壊することが語られていることが分かる。この倒壊するバビロンから離れなければならない。その罪にあずからないため，そしてその災害を受けないためである。[5]

2．バビロンの起源であるエデンの園

創世記を読むと，神が天と地と生けるすべてのものを創造されたことが分かる。そしてさらに神は人

を創造され，人と交わりを持つことを神は望まれた。ところが人が神に対して罪を犯し，神から離れていった。そこで，キリストが血を流して犠牲を払うことによって，神は人の罪を赦す道を開かれた。キリストが十字架の上で血潮を流し，人類の罪の贖いをされた。この罪の贖いを信じる者には，神との交わりの回復が与えられた。罪の報酬は死であるが，キリスト・イエスの十字架上の贖いによって，この贖いを信じる者は罪が赦された。罪が赦されたので，死の呪いから解放され，永遠の命が与えられた。これが福音の要約である。

ところが，人間は，神の救いの道，すなわちキリストの人類の贖いを受け入れようとせず，自分で自分を贖おうとしたり，自分の努力で自分を救おうとしてきた。例えば，アダムとエバは，エデンの園で，善悪の知識の木の実を取って食べてはならないという命令に背き，神に対して罪を犯した。その後，自分たちで罪を何とか処理しようと試みた。彼らは裸であることを知ったので，自分たちで，いちじくの葉をつづり合わせて，腰のおおいを作った。そして，神と顔を合わすことを避けてエデンの園の木の間に身を隠した。[6] これが宗教的行動である。換言すると，神を避けるのみならず，神を排除した上で自分勝手に振る舞い，神に敵対し，反抗する代替的な制度を作り出してきた。これがバビロンであるように思える。神を退けて，善や真理は人間の中にあり，人間が世界の中心にあると考え，自分を信じ，神のようになろうと努力することである。一見良さそうに見えるが，人間は神になることが決してできない。つまり，到達不可能な目標を目指すのが，人文主義である。

3．バビロン王国の確立

ノアの息子は３人いて，セム，ハム，ヤペテであった。ハムの子孫がクシュであり，クシュはニムロデを生んだ。このニムロデがバベルで王国を確立したのである。[7] 創世記10章８～12節では次のような記録がある。

クシュはニムロデを生んだ。ニムロデ[8]が地上で最初の権力者となった。[9] 彼は主のおかげで，力ある猟師[10]になったので，「主のおかげで，力ある猟師ニムロデのようだ。」と言われるようになった。[11] 彼の王国の初めは，バベル，エレク，アカデであり，それらは全てシヌアルの地[12]にあった。[13] その地から彼は，アシュルに進出し，ニネベ，レホボテ・イル，ケラフ，およびニネベとケラフとの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。

ニムロデはアッシリアに隣接しているバビロニアに住んだ。バビロニアは後に，ニムロデの地と呼ばれた。[14]

上の文脈では，初めて王国という言葉が使われ，ニムロデは地上で最初の権力者になったので，最初の王になった。王であるためには，臣下，臣民，領土が必要である。すなわち，権力の中央集権化が必要となる。この権力の集権化は，大洪水の後の神の命令に対して背くことを意味した。大洪水から生き延びたノアやその息子たちに神は「生めよ。ふえよ。地に群がり，地にふえよ。」と語られた。[15] 一方では，大洪水以前において，神は人々に仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚，空の鳥，地をはうすべての生き物を支配せよ。」[16] 大洪水後の神の命令は，「地に群がり，地にふえよ」と命じていることである。「支配せよ」とは命じていないことがこれらの二つの命令を比較すると分かる。

人々を治める王の権利は，第一サムエル記８章９～18節に以下のように記述されている。民の息子たちを軍人として召集する。王の為の農業に従事させたり，軍備を作らせる。民の娘たちは食料や香料を作らせる。良い畑を徴収し，家来に与える。穀物やぶどうの十分の一を取り，王の家来に与える。奴隷や最も優れた若者を取り，王の仕事をさせる。羊の群れの十分の一は王の所有となる。民は王の奴隷となる。[17] こうした権利を持つ地上初の権力者は，上層部が下層部を支配するようないわゆるピラミッド型の組織を作った。その影響は今日に至るまで継

続し，このピラミッド型の支配構造は多くの国で見られている。このようなピラミッド構造はバビロンの特徴の一つである。

4．バベルの塔

コロンビア百科事典の記述によると，バビロンの王であるハムラビ王(1792－1750 BC)が，Etemenanki（シュメール語で天と地の基礎となる建物という意味）と呼ばれるバビロンにある寺院の塔と同一視されるバベルの塔の建立を始めたかもしれないという。[18]

創世記11章４節で参照される「頂が天に届くかもしれない塔」[19]がいわゆるバベルの塔と言われている。

創世記を参照しよう。「さて，全地は一つの言葉，一つの話しことばであった。そのころ，人々は東のほうから移動して来て，シヌアルの地に平地を見つけ，そこに定住した。」[20]

そこでは技術があった。石や粘土は自然のものであるが，瀝青やれんがは技術がなければ製造できない。「彼らは互いに言った。『さあ，れんがを作ってよく焼こう。』彼らは石の代わりにれんがを用い，粘土の代わりに瀝青を用いた。」[21]

「そのうちに彼らは言うようになった。『さあ，われわれは町を建て，頂が天に届く塔を建て，名をあげよう。[22]　われわれが全地に散らされるといけないから。』」[23]　彼らの発言は，まったく自己中心的であった。町を作り，塔を建てる目的が，自己の名声と自己保全のためだったからである。このことは神に反逆することを意味した。「主はすべて心おごる者を忌み嫌われる。確かにこの者は罰を免れない。」[24]

それから，神が地上に来られて言葉を混乱させた。「そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りてこられた。[25]　主は仰せになった。『彼らがみな，一つの民，一つのことばで，このようなことをし始めたのなら，今や彼らがしようと思うことで，とどめられることはない。さあ，降りて行って，そこでの彼らのことばを混乱させ，彼らが互いにことばが通じないようにしよう。』」[26]

こうして主は「人々を，そこから地の全面に散らされたので，彼らはその町を建てるのをやめた。[27]それゆえ，その町の名はバベルと呼ばれた。主が全地のことばをそこで混乱させたから，すなわち，主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。」

言葉が一つであると，どのような状況が起こったかを聖書は告げている。それは大洪水が起こる以前の時代のことである。「主は，地上に人の悪が増大し，その心に計ることがみな，いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」[28]　つまり，言葉は一つで，人々は一致していたけれど，人の悪が増大し，世界的な規模でその悪が同じ言葉を通して蔓延したのである。

彼らは大量殺戮兵器や原子爆弾を開発していたのではなく，れんがや瀝青を使って町を作っていただけであった。なぜ，神の介入が起こったのであろうか。言葉が一つであることと，人々の中にある悪に対する無限の潜在力という２つの要素が存在すると，彼らを抑止することができない状況になることを妨げるために，神の介入があったと考えられる。

創世記11章６節から判断すると，以下の三つの要因が一旦結合すると，彼らを抑止できない者とするような潜在力を持つようになると考えられる。１）切実で統一された共通目標をもつ（このようなことをしはじめた）。２）結束していること（一つの民）。３）コミュニケーションがある（一つのことば）。[29]ただし，この潜在力が人の悪によって活用されないという保証はない。

現代の世界では研究者によって数え方が異なるが，言葉の数は7,102あるという。[30]　言葉の違いはコミュニケーションの障害になりうるだろうか。言葉の多様性は，コミュニケーションの障害というより，悪しき思想が即座に蔓延することを防ぐ防壁になりうるであろう。

5．バビロンとはローマのこと

バビロンの正体とはローマであるという説がおそ

らく一般的ではないだろうか。第一ペテロの手紙５章13節では「バビロン[31]にいる，あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。」と書かれている。すなわち，ペテロはバビロンから手紙を書いたのであろうか。これはメソポタミアにある都市バビロンとして文字通り理解できるかもしれないし，または１世紀において反キリストの究極の中心地であるローマの比喩表現として理解できよう。

６．ヨハネの黙示録18章から見た商業バビロン

この章では大淫婦（the prostitute）への前述のさばきの描写が含まれている。[32] 17章の最後の節で「あなたが見たあの女は地上の王たちを支配する大きな都のことです。」と述べている。17章では大淫婦バビロンの迫りくる破滅がヨハネに示されたのだが，18章ではバビロンの実際の倒壊の状況が示されている。

表１　ヨハネの黙示録17章と18章におけるバビロン

	17　章	18　章
特　徴	売春婦，母，女	大都市（great city），棲家，市場
その正体	ローマ	港湾都市（沿岸都市）
罪	宗教的唾棄	強欲，放縦
倒壊の仕方	かつてはローマを支持をしていた政治権力によって崩壊	神の御手によって突然崩壊

出所：ヨハネの黙示録17と18章

黙示録18章11～19節は，バビロンの商業的側面に関する記述がある。そこでは消費主義が強調されているようだ。

「また，地上の商人たちは彼女のこと，すなわちバビロンの倒壊によって，地上の商人たちが嘆き悲しむ」という。バビロンによって儲けていたが，もはや商品が売れなくなるからである。そこでの経済がどんな形態をとっていても終焉する。

これらの記述から，可視可能な特定の都市がバビロンであると考えられるだろうか。17節後半に「すべての船長，すべての船客，水夫，海で働く者たちも，遠く離れて立っていて，」と書かれている。これは海のそばの港を示唆するものであろうか。シヌアルの平野は海からまったく離れていて，海から観察することはできないから，バビロンが燃え上がるのを観察することは不可能であろう。しかも現代では，衛星放送やスマートフォンがあるから，ほとんどすべてのものをどこからでも見ることが可能になっている。

さらに19節を見ると，彼らは，頭にちりをかぶって，泣き悲しむと書かれている。ちりを頭にかぶることができるなら，彼らは陸にいなければ，それをすることができないはずである。

バビロンが扱う品目は以下の通りである。金，銀，宝石，真珠，麻布，紫布，絹，緋布，香木，さまざまの象牙細工，高価な木，銅や鉄や大理石で造ったあらゆる種類の器具。[33] これらは生活必需品ではなく，奢侈財である。

肉桂，香料，香，香油，乳香，ぶどう酒，オリーブ油，麦粉，麦，牛，羊，馬，車，奴隷，人の命。[34] Davis（1910）によると，これらすべての財はアウグストゥス（Octavianus Augustus）からコンモドゥス（Commodus）までの帝政ローマ時代の首都ローマで売買されたという。

奴隷と人の命（slaves, and souls of men）が取引されている。つまり，商業バビロンの利益は他人を無慈悲に利用することから得られる。かつてローマ帝国では奴隷売買があったが，今日であっても，人身売買（human trafficking），売春，ポルノグラフィーという形態で存在しているように見える。

「立琴をひく者，歌を歌う者，笛を吹く者，ラッパを鳴らす者の声は，もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たちも，もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の音も，もうおまえのうちに聞かれなくなる。」[35] バビロンでは演奏家，歌手，等がいて，娯楽が盛んであるように見える。そしてあらゆる技術を持つ職人がいるから，世界から熟練労働者を引き付ける国（または何らかの組織）のように見える。

7．考古学者チャイルドによるバビロンの経済的特徴付け

単純な銀行業の形態がエジプト，バビロニア，ギリシャの古代神殿によって営業されていた。こうした神殿は保管のために預けられた金銀を利子を付けて貸し出していたのである。考古学者チャイルド（Vere Gordon Childe）によると，メソポタミアにおいて，寺院は都市の宗教生活の中心であるのみならず，資本蓄積の中核部であった。神殿は大銀行として機能し，そこでのいわゆる神（god）がその地の主要資本家である。初期の神殿保存記録は耕作者に対する神殿の神（god）の種や耕作用家畜の貸付，小作人に貸し出される土地，醸造者，船大工の記録を持っている。その社会においては神殿の神（god）が大富豪であった。その富を生み出す社会が活用できるようにした。ただし，借手は借金を返済するのみならず，感謝の捧げものをしなければならなかった。この感謝の捧げものが今日いわゆる利子と呼ばれるものである。またバビロンの諸神殿も銀行として機能した。買付を代行したり，穀物を担保としての貸付や，預けたものと署名による貸付を行ったり，預入に対して利子を支払った。メソポタミアの解読可能な古文書は僧侶によって保管された神殿歳入の記述であった。[36]

神殿は無利息の貸付を支給することが可能であったし，扶養世帯を持たない人々のために食糧と保護施設を提供した。こうした慣行は，経済的に縁辺にいる人々に対する一種の社会保障として機能したのみならず，神殿における職務遂行のための労働力不足軽減に役立ったという。[37] こうした機能は今日でも多くのところで見られる。

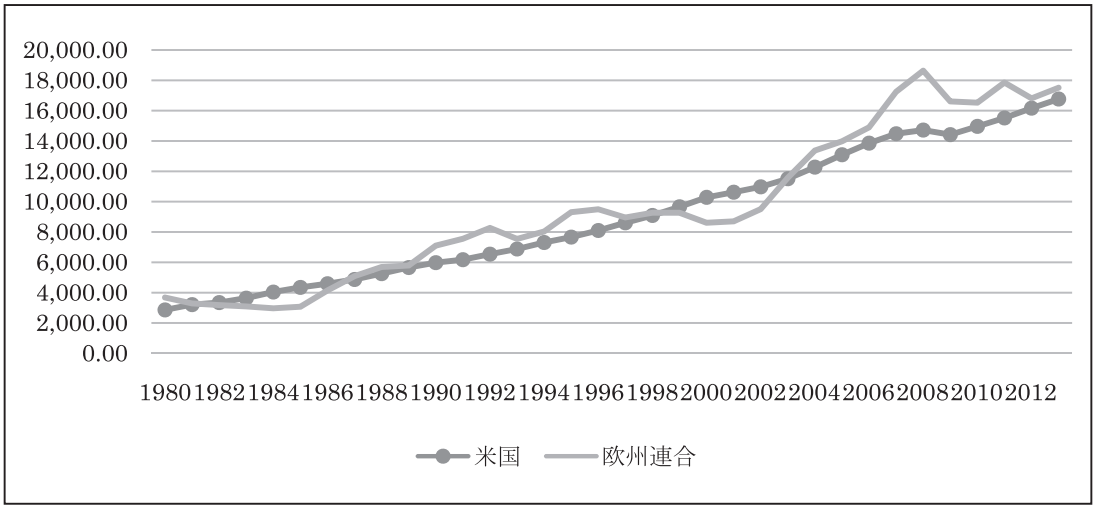
8．バビロン崩壊の原因の一つである環境破壊

古代バビロンの環境破壊がバビロン，そしてバビロン文明の流れを受けたギリシャ帝国，ローマ帝国の滅亡の一因になったことが環境省の『環境白書』で説明されている。[38] 人類は，有史以来，自然環境を利用し，あるいは自然環境から資源を採取して，自然環境に対して負荷を与えつつ，文明社会を形成してきた。それは農業による食糧生産，自然環境を改変した都市の形成など，さまざまの物を生産，消費する社会であり，文明以前の，あるいは文明の影響の及ばない自然界とは異なった人間独特の世界であるといえるだろう。

9．欧州連合（EU）はバビロンか？

欧州連合議会の建物（“Louise Weiss” building）はバベルの塔を模したもののように見える。ただし，それはバベルの塔の想像図に基づくものであろう。しかも，完成したバベルの塔ではなく，建設中という印象さえ受ける。欧州はまだ未完であるという性質を反映しているという説もある。しかもその建物の前には獣に乗った女の像がある。黙示録17章３節には「ひとりの女が緋色の獣に乗っている」と書かれている。この女はバビロンを象徴している。それゆえ，欧州連合はバビロンになろうとしているのであろうか。

欧州連合はどこまで拡大していくのか。EU の歴史は1952年の欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）設立にさかのぼる。第二次世界大戦後の欧州の復興に不可欠であり，かつ軍事資源でもある石炭と鉄鋼を共同で開発・運営することにより，平和と安定および繁栄を図ろうという思いを共有したベルギー，ドイツ（当時の西ドイツ），フランス，イタリア，ルクセンブルク，オランダの６カ国が，自国の権限の一部を移譲して共同体を創設した。この６カ国が，後の欧州共同体（EC），それに続く EU の母体となった。その後，拡大を続け，2015年では，加盟国数は28になった。図１は欧州連合の名目 GDP を示す。長期的には右方上がりであり，2013年では世界 GDP（188ヶ国）のうち23.4％を占めている。つまり，世界の付加価値の総額の約４分の１を占めるに至っている。欧州連合はそれぞれの国の立場もあるが，同時に欧州連合としての共通の立場を取ることによって，政治的に結束した発言をしている。経済・通貨統合では国家主権の一部を委譲し，域外に対しては共通通商政策を実施しているが，欧州連合内では世



出所：International Monetary Fund, *World Economic Outlook Database*, October 2014

図１　米国と欧州連合の名目 GDP（単位：10億ドル）

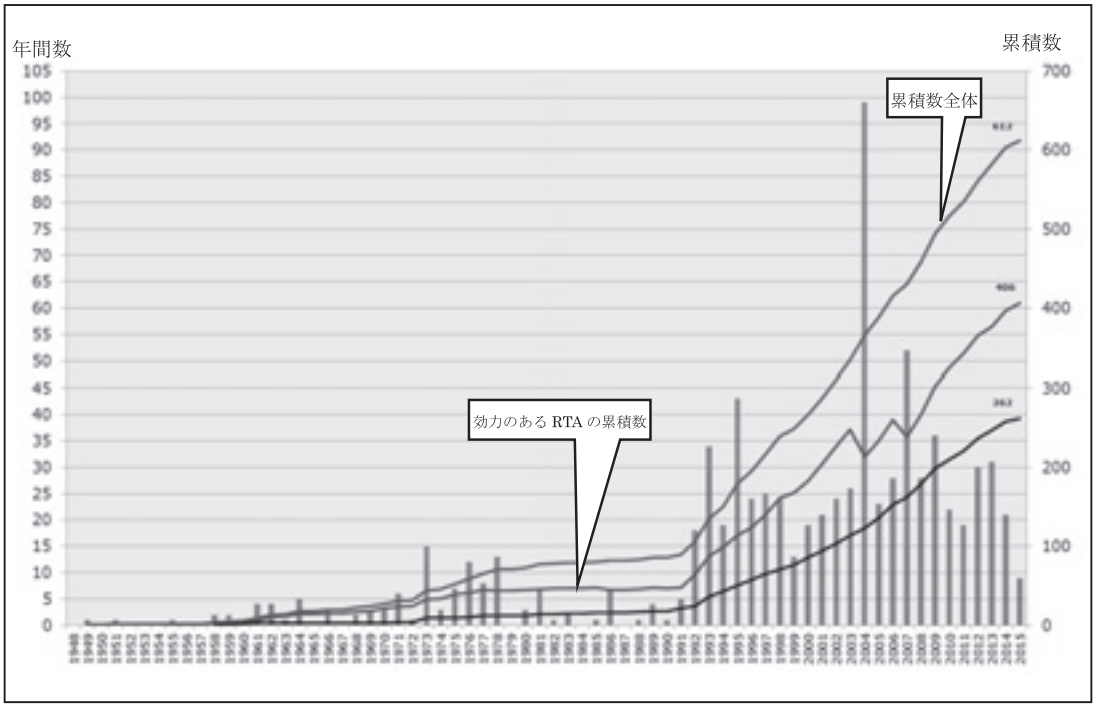
界最大とも言える単一市場を持つ。また共通外交・安全保障政策，警察・刑事司法協力等のより幅広い分野での協力を進めている政治・経済統合体である。[39]　先述したように，三つの要因が一旦結合されると，抑止できないような無限の潜在力を持ちうることができる。欧州連合は共通目標を持ち，将来的には政治統合も進展するであろう。つまり一つの民になるかもしれない。そして３番目の要因である共通の言葉はどうであろうか。

10.　グローバル化がバビロンを発展拡大させる

2015年４月７日時点において，WTO/GATT にはこれまでに約612件の地域貿易協定の届け出がなされてきた。このうち，406件は効力がある（図２を参照のこと）。実施されている地域貿易協定の総数は着実に増加してきた。現在交渉中の多数の貿易協定によって，この傾向は強化されるであろう。この内，自由貿易協定と部分的領域協定（partial scope agreement）は90％を占め，10％が関税同盟である。こうした協定は多角的貿易協定ではないが，多角的貿易交渉と並行して進展することによって，グローバル化を多少促進させる役割があると思える。グローバル化は，製品で言えば，各国の国民は同じものを標準品として所有するようになるだろう。インターネットの普及は映像を含む情報を一瞬にして世界中に流布させることができる。様々な経済連携協定は貿易以外での経済分野の交流を深化させるであろう。グローバル化が進展すると，究極的には，共通目標設定, 政治を通しての結束, 共通コミュニケーションの共有化が実現するであろう。

11. むすびにかえて

結局のところ，バビロンは，製品が人々を幸せにさせると錯覚を起こさせる制度である。そうではなく，いつも人間のほうが製品より重要な存在でなければならない。自分自身の計画やプログラムや成功を誇りにしてはならない。金儲けよりも人々のことを常に上位のものとして考慮しなければならない。単に人々の欲するものを満たすためのものではなく，本当に価値のある製品や用役を提供する事業にかかわるべきである。神の御心と神の御言葉は決して妥協されるものであってはいけない。[40]　イスラエルの王達はエジプトとの交易を通じて，馬や金銀を増やさないように警告を受けた。なぜなら，財や軍事力を増加させることは，神以外のものを崇拝する結果をもたらすからである。[41]



出所：WTO Secretariat　https : //www.wto.org/english/tratop_e/region_e/regfac_e.htm（04/14/2015アクセス）

図２　世界における地域貿易協定（RTA）の進展　1948－2015

すでに起こりつつあるが，グローバル化はバビロンの特徴をさらに明確なものとしていくと思える。初期の段階では，貿易，資本，労働移動による経済的統合が起こる。その後，起こり得るのが欧州連合のケースから推測できるように政治統合である。すると三つの要因のうち二つの要因が満たされる。そうすると三番目の要因である「ひとつのことば」はどのように満たされるのであろうか。最近，スカイプ上で同時通訳の機能が提供されるようになるというニュースがあった。そこの最高経営責任者によると，「言語の壁が無くなり，誰とでも会話ができるようになる」と語ったという。[42]　現在，何がバビロンか断定できないが，三つの要因が揃う時に，その答えが与えられそうである。

参考文献：

Barton, Bruce B, et al. *Life Application Bible*, Wheaton, Illinois : Tyndale House Publishers, Inc. and Youth for Christ / USA. 1988.

Browning, W.R.F. *A Dictionary of the Bible*. Oxford : Oxford University Press. 1997.

Campolo, Tony, “What St. John Said about the Economic Meltdown,” *Tikkun*. Volume：24. Issue：3. May / June 2009. p. 15＋

Childe. Vere Gordon, *Man makes himself.* New York : New American Library. 1951.

“banking” *The Columbia Encyclopedia,* 6 th ed. Columbia University Press. 2014.

“Hammurabim” *The Columbia Encyclopedia,* 6 th ed. Columbia University Press. 2014.

Davis, William Stearns. *The Influence of Wealth in Imperial Rome*. New York : Macmillan. 1910. p. 116.

環境省『平成７年版環境白書』１章２節。

Kohlenberger, John R. III. The Precise Parallel New Testament. Oxford : Oxford University Press. 1995.

Leick, Gwendolyn. *The Babylonians : An Introduction.* London : Routledge. 2003. p. 85.

Halley, Henry H. *Halley's Bible Handbook with the New International Version*. Michigan : Zondervan. 2007.

Life Publishers International. *The Full Life Study Bible King James Version*. Grand Rapids, Michigan : Zondervan Publishing house. 1992.

Noe, John. "An Exegetical Basis for a Preterist–Idealist Understanding of the Book of Revelation," *Journal of the Evangelical Theological Society*. Evangelical Theological Society. Volume：49. Issue：4 December 2006. p. 767 ＋.

Silvoso, Ed. *Transformation. : Change The Marketplace and You Change the World*. Chosen Books. 2011.

Thomas Nelson Publishers. *The Holy Bible Old and New Testaments in the King James Version*. Nashvillle, Tennessee : Thomas Nelson. Inc. 1976.

White, Leslie A. *The Evolution of Culture : The Development of Civilization to the Fall of Rome*. New York : McGraw–Hill. 1959. p. 327.

Williams, Derek. New Concise Bible Dictionary. Leicester, England : Inter–Varsity Press. 1990.

註：

1　聖書は，日本語訳は新改訳（２版，1995年），英語訳は欽定訳を用いている。この両者の間には，翻訳が異なる箇所がかなりある。

2　バベルとはバビロンを表すヘブライ語である。

3　ヨハネの黙示録 14章８節，16章19節，17章５節，18章２節，18章10節，18章21節。

4　イザヤ書47章12, 13節。

5　ヨハネの黙示録18章４節。

6　創世記３章。

7　また，バビロンの伝説によると，マルドゥク（Marduk）がバビロンを創設したという。Willams. p. 49.

8　日本語訳ではニムロドと訳す場合もある。ヘブライ語では「我々は反逆する」という意味を持つ。

9　第一歴代誌１章10節を参照せよ。

10　力ある漁師とは，野獣の脅威に常にさらされていた当時では，人々の保護者であったことを意味する。Halley, p. 98.「主のおかげ」とは，建てられたすべての権威は主によるものであることを意味する。箴言８章15, 16節，「すべての人は，上に立つ権威に従うべきである。なぜなら，神によらない権威はなく，おおよそ存在している権威は，すべて神によって立てられたものだからである（ローマ人への手紙13章１節）。」

11　創世記10章８，９節。

12　シヌアルの地というのは，メソポタミア（川の間の地）の南つまり川下の地域であり，ここは今の歴史学の常識では人類最古の文明とされるシュメール文明が発祥した地とされる。

13　創世記10章10節。

14　ミカ書５章６節。

15　創世記９章７節。創世記９章１節にも類似したことが語られている。

16　創世記１章26節。

17　新改訳では奴隷であるが，欽定訳では servants としている。

18　"Hammurabim" *The Columbia Encyclopedia.*

19　欽定訳聖書では「届くかもしれない」という部分は補足的な言葉である。

20　創世記11章1, ２節。

21　瀝青（欽定訳では slime）ではなく，アスファルトという訳もある。「石の代わりに煉瓦を，漆喰の代わりにアスファルトを」用いたという記述は古代における技術革新があったことを示唆する。技術は過去より現代の方が優れていると考えがちであるが，過去に起こったことを現代において忘れられているだけの場合もある。例えば，いわゆるノアの箱舟の構造は現代巡航するタンカーの構造と似ている。シュメール文明において，紀元前2400年頃には，現在のアメリカやカナダの収穫量に匹敵する１ヘクタール当たり平均2, 537リットルの大麦収穫があった。『平成７年版環境白書』１章２節　を参照せよ。

22　ヘブライ語を名と翻訳しているが，名声，名誉という意味もある。

23　創世記11章４節。ここで参照される塔がいわゆるバベルの塔である。これを誰が建立し始めたかに関しては諸説がある。例えば，数百年に亘り何度も修復した塔をさらにハムラビ（Hammurabi）が大規模に手を加えたものという説がある。

24　箴言16章５節。

25　創世記11章５節。

26　創世記11章６節。

27　聖書では「彼らはその町を建てることを中止した」という記述がある。神が塔を崩したという記述は聖書にはない。

28　創世記６章５節。

29　Silvoso, p. 192.

30　Ethnolologue, https : //www.ethnologue.com/（2015年３月28日アクセス）

31　欽定訳聖書では「バビロン」の箇所が「（バビロンにある）教会」となっている。ただし，「教会」の部分は補足的な翻訳であり，本来の言語を英語により良く関連付けさせ，意味を明確化するように役立つように，編著者によって付け加えられている。

32　ヨハネの黙示録17章。

33　ヨハネの黙示録18章12節。

34　ヨハネの黙示録18章13節。

35　ヨハネの黙示録18章22節。

36　Childe, p. 124.　邦訳は『文明の起源』がある。
37　Gwendolyn, p. 78.
38　『平成７年版環境白書１章２節』
39　外務省・欧州連合（EU）概況 http : //www.mofa.go.jp /mofaj/area/eu/data.html（04／14／2015アクセス）.
40　Barton, p. 1995.
41　申命記17章16～17節。
42　Web 刊日本経済新聞　「『スカイプ』同時通訳　米マイクロソフトが試験版」2014年９日

抄　　録

バビロンとは何であるかを聖書を中心として考察した。その起源はエデンの園で，罪の処理を人間が自ら行おうとしたことから始まった。バビロンとは神に敵対し，神を排除しようとする体制であり，歴史の最初から最後まで存在してきた。歴史の終わりにバビロンは倒壊することが預言されている。創世記11章６節から，バビロンの顕著な３つの特徴は，統一された共通目標を持ち，結束しており，世界普遍的な一つの言語を持っている存在である。これらの要素が結合されると，抑止しがたい勢力のある存在となる。それは世界のグローバル化が進展するにつれて，その正体を現すと思われる。

キーワード：バビロン，ニムロデ，ハムラビ，バベルの塔